

ガラ1:1 人々からでもなく、人を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中から復活させた父である神とによって使徒とされたパウロ、

ガラ1:2 ならびに、わたしと一緒にいる兄弟一同から、ガラテヤ地方の諸教会へ。

ガラ1:3 わたしたちの父である神と、主イエス・キリストの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

ガラ1:4 キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自分をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。

ガラ1:5 わたしたちの神であり父である方に世々限りなく栄光がありますように、アーメン。

ガラ1:6 キリストの恵みへ招いてくださった方から、あなたがたがこんなにも早く離れて、ほかの福音に乗り換えようとしていることに、わたしはあきれ果てています。

ガラ1:7 ほかの福音といっても、もう一つの別の福音があるわけではなく、ある人々があなたがたを惑わし、キリストの福音を覆そうとしているにすぎないのです。

ガラ1:8 しかし、たとえわたしたち自身であれ、天使であれ、わたしたちがあなたがたに告げ知らせたものに反する福音を告げ知らせようとするならば、呪われるがよい。

ガラ1:9 わたしたちが前にも言っておいたように、今また、わたしは繰り返して言います。あなたがたが受けたものに反する福音を告げ知らせる者がいれば、呪われるがよい。

ガラ1:10 こんなことを言って、今わたしは人に取り入ろうとしているのでしょうか。それとも、神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、何とかして人の気に入ろうとあくせくしているのでしょうか。もし、今なお人の気に入ろうとしているなら、わたしはキリストの僕ではありません。

ガラ1:11 兄弟たち、あなたがたにはっきり言います。わたしが告げ知らせた福音は、人によるものではありません。

ガラ1:12 わたしはこの福音を人から受けたのでも教えられたのでもなく、イエス・キリストの掲示によって知らされたのです。

ガラ1:13 あなたがたは、わたしがかつてユダヤ教徒としてどのようにふるまっていたかを聞いています。わたしは、徹底的に神の教会を迫害し、滅ぼそうとしていました。

ガラ1:14 また、先祖からの伝承を守るのに人一倍熱心で、同胞の間では同じ年ごろの多くの人よりもユダヤ教に徹しようとしていました。

ガラ1:15 しかし、わたしを母の体内にあるときから選び分け、恵みによって召し出してくださった神が、御心のままに、

ガラ1:16 御子をわたしに示して、その福音を異邦人に告げ知らせるようにされたとき、わたしは、すぐ血肉に相談するようなことはせず、

ガラ1:17 また、エルサレムに上って、わたしより先に使徒として召された人たちのもとに行くこともせず、アラビアに退いて、そこから再びダマスコに戻ったのです。

ガラ1:18 それから三年後、ケファと知り合いになろうとしてエルサレムに上り、十五日間彼のもとに滞在しましたが、

ガラ1:19 ほかの使徒にはだれにも会わず、ただ主の兄弟ヤコブにだけ会いました。

ガラ1:20 わたしがこのように書いていることは、神の御前で断言しますが、うそをついているわけではありません。

ガラ1:21 その後、わたしはシリアおよびキリキアの地方へ行きました。

ガラ1:22 キリストに結ばれているユダヤの諸教会の人々とは、顔見知りではありませんでした。

ガラ1:23 ただ彼らは、“かつて我々を迫害した者が、あの当時滅ぼそうとしていた信仰を、今は福音として告げ知らせている”と聞いて、

ガラ1:24 わたしのことで神をほめたたえておりました。

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ2:1 その後十四年たってから、わたしはバルナバと一緒にエルサレムに再び上りました。その際、テトスも連れて行きました。

ガラ2:2 エルサレムに上ったのは、掲示によるものでした。わたしは、自分が異邦人に宣べ伝えている福音について、人々に、とりわけ、おもだった人たちには個人的に話して、自分は無駄に走っているのではないか、あるいは走ったのではないかと意見を求めました。

ガラ2:3 しかし、わたしと同行したテトスでさえ、ギリシア人であったのに、割礼を受けることを強制されませんでした。

ガラ2:4 潜り込んで来た偽の兄弟たちがいたのに、強制されなかったのです。彼らは、わたしたちを奴隷にしようとして、わたしたちがキリスト・イエスによって得ている自由を付けねらい、こっそり入り込んで来たのです。

ガラ2:5 福音の真理が、あなたがたのもとにいつもとどまっているように、わたしたちは、片ときもそのような者たちに屈伏して譲歩するようなことはしませんでした。

ガラ2:6 おもだった人たちからも強制されませんでした。——この人たちがそもそもどんな人であったにせよ、それは、わたしにはどうでもよいことです。神は人を分け隔てなさいません。——実際、そのおもだった人たちは、わたしにどんな義務も負わせませんでした。

ガラ2:7 それどころか、彼らは、ペトロに割礼を受けた人々に対する福音が任されたように、わたしには割礼を受けていない人々に対する福音が任されていることを知りました。

ガラ2:8 割礼を受けた人々に対する使徒としての任務のためにペトロの働きかけた方は、異邦人に対する使徒としての任務のためにわたしにも働きかけられたのです。

ガラ2:9 また、彼らはわたしに与えられた恵みを認め、ヤコブとケファとヨハネ、つまり柱と目されるおもだった人たちは、わたしとバルナバに一致のしるしとして右手を差し出しました。それで、わたしたちは異邦人へ、彼らは割礼を受けた人々のところに行くことになったのです。

ガラ2:10 ただ、わたしたちが貧しい人たちのことを忘れないようにとのことでしたが、これは、ちょうどわたしも心がけてきた点です。

ガラ2:11 さて、ケファがアンティオキアに来たとき、避難すべきところがあったので、わたしは面と向かって反対しました。

ガラ2:12 なぜなら、ケファは、ヤコブのもとからある人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事をしていたのに、彼らがやって来ると、割礼を受けている者たちを恐れてしり込みし、身を引こうとしましたからです。

ガラ2:13 そして、ほかのユダヤ人も、ケファと一緒にこのような心にもないことを行い、バルナバさえも彼らの見せかけの行いに引きずり込まれてしまいました。

ガラ2:14 しかし、わたしは、彼らが福音の真理にのっかってまっすぐ歩いていないのを見たとき、皆の前でケファに向かってこう言いました。“あなたはユダヤ人でありながら、ユダヤ人らしい生き方をしないで、異邦人のように生活しているのに、どうして異邦人にユダヤ人のように生活す◆

2,14-1,生活することを強制するのですか。”

ガラ2:15 わたしは生まれながらのユダヤ人であって、異邦人のような罪人ではありません。

ガラ2:16 けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人◆

2,16-1,だれ一人として義とされないからです。

ガラ2:17 もしわたしたちが、キリストによって義とされるように努めながら、自分自身も罪人であるなら、キリストは罪に仕える者ということになるのでしょうか。決してそうではない。

ガラ2:18 もし自分で打ち壊したものを再び建てるとすれば、わたしは自分が違反者であると証明することになります。

ガラ2:19 わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています。

ガラ2:20 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げらえた神の子に対する信仰によるものです。

ガラ2:21 わたしは、神の恵みを無にはしません。もし、人が律法のお陰で義とされるとすれば、それこそ、キリストの死は無意味になってしまいます。

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ3:1 ああ、物分りの悪いガラテヤの人たち、だれがあなたがたを惑わしたのか。目の前に、イエス・キリストが十字架につけられた姿ではっきり示されたではないか。

ガラ3:2 あなたがたに一つだけ確かめたい。あなたがたが、‘霊’を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも、福音を聞いて信じたからですか。

ガラ3:3 あなたがたは、それほど物分りが悪く、‘霊’によって始めたのに、肉によって仕上げようとするのですか。

ガラ3:4 あれほどのことを体験したのは、無駄だったのですか。無駄であったはずはないでしょうに・・・

ガラ3:5 あなたがたに‘霊’を授け、また、あなたがたの間で奇跡を行われる方は、あなたがたが律法を行ったから、そうなさるのでしょうか。それとも、あなたがたが福音を聞いて信じたからです。

ガラ3:6 それは、“アブラハムは神を信じた。それは彼の義と認められた”と言われているとおりです。

ガラ3:7 だから、信仰によって生きる人々こそ、アブラハムの子であるとわきまえなさい。

ガラ3:8 聖書は、神が異邦人を信仰によって義となさることを見越して、“あなたのゆえに異邦人は皆祝福される”という福音をアブラハムに予告しました。

ガラ3:9 それで、信仰によって生きる人々は、信仰の人アブラハムと共に祝福されています。

ガラ3:10 律法の実行に頼る者はだれでも、呪われています。“律法の書に書かれているすべての事を絶えず守らない者は皆、呪われている”と書いてあるからです。

ガラ3:11 律法によってはだれも神の御前で義とされないことは、明らかです。なぜなら、“正しい者は信仰によって生きる”からです。

ガラ3:12 律法は、信仰をよりどころとしていません。“律法の定めを果たす者は、その定めによって生きる”のです。

ガラ3:13 キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。“木にかけられた者は皆呪われている”と書いてあるからです。

ガラ3:14 それは、アブラハムに与えられた祝福が、キリスト・イエスにおいて異邦人に及ぶためであり、また、わたしたちが、約束された‘霊’を信仰によって受けるためでした。

ガラ3:15 兄弟たち、分かりやすく説明しましょう。人の造った遺言でさえ、法律的に有効となったら、だれも無効にしたり、それに追加したりはできません。

ガラ3:16 ところで、アブラハムとその子孫に対して約束が告げられましたが、その際、多くの人を指して“子孫たちとに”とは言われず、一人の人を指して“あなたの子孫とに”と言われています。この“子孫とは、キリストのことです。

ガラ3:17 わたしが言いたいのは、こうです。神によってあらかじめ有効なものと定められた契約を、それから四百三十年後にできた律法が無効にして、その約束を反故にすることはないということです。

ガラ3:18 相続が律法に由来するものなら、もはや、それは約束に由来するものではありません。しかし神は、約束によってアブラハムにその恵みをお与えになったのです。

ガラ3:19 では、律法とはいったい何か。律法は、約束を与えられたあの子孫が来られるときまで、違反を明らかにするために付け加えられたもので、天使たちを通し、仲介者の手を経て制定されたものです。

ガラ3:20 仲介者というものは、一人で事を行う場合には要りません。約束の場合、神はひとりで事を運ばれたのです。

ガラ3:21 それっでは、律法は神の約束に反するものなのではしょうか。決してそうではない。万一、人を生かすことができる律法が与えられたとするなら、確かに人は律法によって義とされたでしょう。

ガラ3:22 しかし、聖書はすべてのものを罪の支配かに閉じ込めたのです。それは、神の約束が、イエス・キリストへの信仰によって、信じる人々に与えられるようになるためでした。

ガラ3:23 信仰が現れる前には、わたしたちは律法の元で監視され、この信仰が掲示されるようになるまで閉じ込められていました。

ガラ3:24 こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。

ガラ3:25 しかし、信仰が現れたので、もはや、わたしたちはこのような養育係の下にはいません。

ガラ3:26 あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれ神の子なのです。

ガラ3:27 洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。

ガラ3:28 そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。

ガラ3:29 あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ4:1 つまり、こういうことです。相続人は、未青年である間は、全財産の所有者であっても僕と何ら変わるところがなく、

ガラ4:2 父親が定めた期日までは後見人や管理人の監督の下にいます。

ガラ4:3 同様にわたしたちも、未青年であったときは、世を支配する諸霊に奴隷として仕えていました。

ガラ4:4 しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生れた者としてお遣わしになりました。

ガラ4:5 それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。

ガラ4:6 あなたがたが子であることは、神が、“アッバ、父よ”と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。

ガラ4:7 ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。

ガラ4:8 ところで、あなたがたはかつて、神を知らずに、もともと神でない神々に奴隷として仕えていました。

ガラ4:9 しかし、今は神を知っている、いや、むしろ神から知られているのに、なぜ、あの無力で頼りにならない支配する諸霊の下に逆戻りし、もう一度改めて奴隷として仕えようとしているのですか。

ガラ4:10 あなたがたは、いろいろな日、月、時節、年などを守っています。

ガラ4:11 あなたがたのために苦労したのは、無駄になったのではなかったかと、あなたがたのことが心配です。

ガラ4:12 わたしもあなたがたのようになったのですから、あなたがたもわたしのようになってください。兄弟たち、お願いします。あなたがたは、わたしに何一つ不当な仕打ちをしませんでした。

ガラ4:13 知ってのとおり、この前わたしは、体が弱くなったことがきっかけで、あなたがたに福音を告げ知らせました。

ガラ4:14 そして、わたしの身には、あなたがたにとって試練ともなるようなことがあったのに、さげすんだり、忌み嫌ったりせず、かえって、わたしを神の使いであるかのように、また、キリスト・イエスでもあるかのように、受け入れてくれました。

ガラ4:15 あなたがたが味わっていた幸福は、いったいどこへ行ってしまったのか。あなたがたのために証言しますが、あなたがたは、できることなら、自分の目をえぐり出してもわたしに与えようとしたのです。

ガラ4:16 すると、わたしは、真理を語ったために、あなたがたの敵となったのですか。

ガラ4:17 あの者たちがあなたがたに対して熱心になるのは、銭からではありません。かえって、自分たちに対して熱心にならせようとして、あなたがたを引き離したいのです。

ガラ4:18 わたしがあなたがたのもとにいる場合だけに限らず、いつでも、善意から熱心に慕われるのは、よいことです。

ガラ4:19 わたしの子供たち、キリストがあなたの内に形づくられるまで、わたしは、もう一度あなたがたを産もうと苦しんでいます。

ガラ4:20 できることなら、わたしは今あなたがたのもとに居合せ、語調を変えて話したい。あなたがたのことで途方に暮れているからです。

ガラ4:21 わたしに答えてください。律法の下にいたいと思っている人たち、あなたがたは、律法の言うことに耳を貸さないのですか。

ガラ4:22 アブラハムには二人の息子がおり、一人は女奴隷から生まれ、もう一人は自由な身の女から生れたと聖書に書いてあります。

ガラ4:23 ところで、女奴隷の子は肉によって生れたのに対し、自由な女から生まれた子は約束によって生まれたのでした。

ガラ4:24 これには、別の意味が隠されています。すなわち、この二人の女とは二つの契約を現しています。子を奴隷の身分に産む方は、シナイ山に由来する契約を表していて、これがハガルです。

ガラ4:25 このハガルは、アラビアではシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、今のエルサレムは、その子供たちと共に奴隷となっているからです。

ガラ4:26 他方、天のエルサレムは、いわば自由な身の女であって、これはわたしの母です。

ガラ4:27 なぜなら、次のように書いてあるからです。“喜べ、子を産まない不妊の女よ、喜びの声をあげて叫べ、産みの苦しみを知らない女よ。一人取り残された女が夫ある女よりも、多くの子を産むから。”

ガラ4:28 ところで、兄弟たち、あなたがたは、イサクの場合のように、約束の子です。

ガラ4:29 けれども、あのとき、肉によって生まれた者を迫害したように、今も同じようなことが行われています。

ガラ4:30 しかし、聖書に何と書いてありますか。“女奴隷とその子を追い出せ。女奴隷から生まれた子は、断じて自由な身の御nあから生まれた子と一緒に相続人になってはならないからである”と書いてあります。

ガラ4:31 要するに、兄弟たち、わたしたちは、女奴隷の子ではなく、自由の身の女から生れた子なのです。

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ5:1 この自由を得させるために、キリストはわたしたちを自由の身にしてくださったのです。だから、しっかりなさい。奴隷の軛に二度とつながれてはなりません。

ガラ5:2 ここで、わたしパウロはあなたがたに断言します。もし割礼を受けるなら、あなたがたにとってキリストは何の約にも立たない方になります。

ガラ5:3 割礼を受ける人すべてに、もう一度はっきり言います。そういう人は律法全体を行う義務があるのです。

ガラ5:4 律法によって義とされようとするなら、あなたがたはだれであろうと、キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも失います。

ガラ5:5 わたしたちは、義とされた者の希望が実現することを、'霊'により、信仰に基づいて切に待ち望んでいるのです。

ガラ5:6 キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

ガラ5:7 あなたがたは、よく走っていました。それなのに、いったいだれが邪魔をして真理に従わないようにさせたのですか。

ガラ5:8 このような誘いは、あなたがたを召し出しておられる方からのものではありません。

ガラ5:9 わずかなパン種が練り粉全体を膨らませるのです。

ガラ5:10 あなたがたが決して別な考えを持つことはない、わたしは主をよりどころとしてあなたがたを信頼しています。あなたがたを惑わす者は、だれであろうと、裁きを受けます。

ガラ5:11 兄弟たち、このわたしが、今なお割礼を宣べ伝えているとするならば、今なお迫害を受けているのは、なぜですか。そのようなことを宣べ伝えれば、十字架のつまずきもなくなっていたことでしょう。

ガラ5:12 あなたがたをかき乱す者たちは、いつそのこと自らの去勢してしまえばよい。

ガラ5:13 兄弟たち、あなたがたは、自由受を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機械とせず、愛によって互いに仕えなさい。

ガラ5:14 律法全体は、"隣人を自分のように愛しなさい"という一句によって全うされるからです。

ガラ5:15 だが、互いにかみ合い、共食しているのなら、互いに滅ぼされないように注意しなさい。

ガラ5:16 わたしが言いたいのは、こういうことです。霊お導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。

ガラ5:17 肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているの、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。

ガラ5:18 しかし、霊に導かれているなら、あなたがたは、律法の下にはいません。

ガラ5:19 肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、

ガラ5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、

ガラ5:21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。以前行っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。

ガラ5:22 これは対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、肝要、親切、善意、誠実、

ガラ5:23 柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。

ガラ5:24 キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情や欲望もろとも十字架につけてしまったのです。

ガラ5:25 わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。

ガラ5:26 うぬぼれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりするのはやめましょう。

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ***:

ガラ6:1 兄弟たち、万一だれかが不注意にも何かの罪に陥ったなら、'霊'に導かれて生きているあなたがたは、そういう人を柔和な心で正しい道に立ち帰らせなさい。あなた自身も誘惑されないように、自分に気をつけなさい。

ガラ6:2 互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこし、キリストの律法を全うすることになるのです。

ガラ6:3 実際には何者でもないのに、自分をひとかどの者だと思ふ人がいるなら、その人は自分自身を欺いています。

ガラ6:4 各自で、自分お行いを吟味してみなさい。そうすれば、自分に対してだけは誇れるとしても、他人に対して

は誇ることができないでしょう。

ガラ6:5 めいめいが、自分の重荷を担うべきです。

ガラ6:6 御言葉を教えてもらう人は、教えてくれる人と持ち物をすべて分かち合いなさい。

ガラ6:7 思い違いをしてはいけません。神は、人から侮られることはありません。人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。

ガラ6:8 自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります。

ガラ6:9 たゆまず善を行いましょう。飽きずに励んでいれば、時が来て、実を刈り取ることになります。

ガラ6:10 ですから、今、時のある間に、すべての人に対して、特に信仰によって家族になった人々に対して、善を行いましょう。

ガラ6:11 このとおり、わたしは今こんなに大きな字で、自分の手であなたがたに書いています。

ガラ6:12 肉において人からよく思われたがっている者たちが、ただキリストの十字架のゆえに迫害されたくないばかりに、あなたがたに無理やり割礼を受けさせようとしています。

ガラ6:13 割礼を受けている者自身、実は律法を守っていませんが、あなたがたの肉について誇りたいために、あなたがたにも割礼を望んでいます。

ガラ6:14 しかし、このわたしには、わたしたちの主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものが決してあつてはありません。この十字架によって、世はわたしに対し、わたしは世に対してはりつけにされているのです。

ガラ6:15 割礼の有無は問題ではなく、大切なのは、新しく創造されることです。

ガラ6:16 このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐みがあるように。

ガラ6:17 これからは、だれもわたしを煩わさないでほしい。わたしは、イエスの焼き印を身に受けているのです。

ガラ6:18 兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように、アーメン。